

第2回「釧路川流域委員会」での意見に対する検討方針

各委員の意見等の検討方針（案）

区分	各委員の意見等	検討方針(案)
水質について	<ul style="list-style-type: none"> 水質データは、湖沼、海はCODで河川はBODで測ることになっているが、湖沼のBODも出した方が、河川と比較する上で分かりやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> BODを観測している湖沼もあるが、現在、湖沼はCODで評価されているため、屈斜路湖ではBODの観測を行っていない。
	<ul style="list-style-type: none"> 流域土地利用計画等の経年変化を見ると、畑地、牧草地が相当増えており、化学的肥料の使用や、道路に大量に散布している融雪剤の塩化カルシウム等が河川に与える影響について憂慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 水質については、地域の関係機関と連携をとり検討していく。 釧路川流域の化学肥料の使用状況と道路の融雪剤の散布状況を -2に示す。
	<ul style="list-style-type: none"> 川の水質については詳しい資料があるが、釧路湿原の3つの大きな湖沼の水質についての資料がない。氾濫して水位が上昇したときに土砂などを大量に含んだ水が逆流して、ため池になって沈泥が起こっている。達古武沼は、SSやヘドロ状の堆積物が非常に増えているという報告もあり、湖沼の水質については、しっかり見る必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 出水時の湖沼への土砂の影響についても現況把握を行い、必要に応じて今後対策検討を行っていく。 湖沼の水質について今後整理する。 -3に釧路市水道部の水質測定位置と近年の状況を示す。
正常流量について	<ul style="list-style-type: none"> 正常流量の考え方で、河口閉塞について心配している。上流の土地利用で牧草地が年々開拓され、保水力が全体的になくなっているということが言えるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 河口閉塞の発生はいままで起きていないが、河口砂洲の変化に十分注意していく。 保水力は道内他河川と比較しても河川流況が良い特徴があるが、土地利用との関連性についても今後考慮して対応していく。（-5に新釧路川河口部の経年変化を示す。）
河川整備について	<ul style="list-style-type: none"> 釧路川の治水面の特性については、他の地域との比較等を見ていくことによって、より浮かび上がってくるという部分もあるのではないか。データ的には整理しづらいところもあると思うが、わかりやすく情報整理をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の作成時に他河川と比較できるものができる限り行うこととする。
	<ul style="list-style-type: none"> 森林の現状を見ると、昭和20年代から比べると、大きく変化している状況になっている。当然、森林・河岸についての課題も1つの視点として取り入れる必要がある。魚道については、魚道が設置され、魚は通過しやすくなっても、繁殖する場所がなかったらどうしようもない。川としての機能を維持しているのか見なければならない。魚は通るが上らない魚道ができないように考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、具体的な検討を進めていく中で、考慮していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 護岸のコンクリート3面張りは、生物生息上の観点からも望ましくないので、近自然工法という形で考えてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後ランドデザインの検討などをふまえて、自然環境を考慮した近自然工法を取り入れていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 護岸の必要なところはかなり危険なのか。必要性について基準があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 護岸の必要な箇所は、堤防が危険となる箇所、河岸侵食の可能性が高いところが主な箇所である。基準としては堤防の危険性から判断した河岸防護ラインを設定し、必要に応じて護岸を行うこととしている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 春先になったら問題点等、現地を調査するよう検討して欲しい。 	

【釧路川流域の化学肥料の使用状況と道路の融雪剤の散布状況】

釧路川流域の化学肥料の使用状況と国道と道々について、近年の融雪剤の散布状況をとりとまとめた。

1) 化学肥料の使用状況

平成13年度の釧路川流域における化学肥料の販売量はおよそ15,884tであった(各JAにおける販売量の流域面積比合計)。これは流域内の畑地と牧草地に約30t/km²の化学肥料を施肥したことになる(但し、畑地と牧草地の面積(畑地+牧草地=519.3km²)は平成12年度釧路川外土地利用調査検討業務報告書から算出した)。

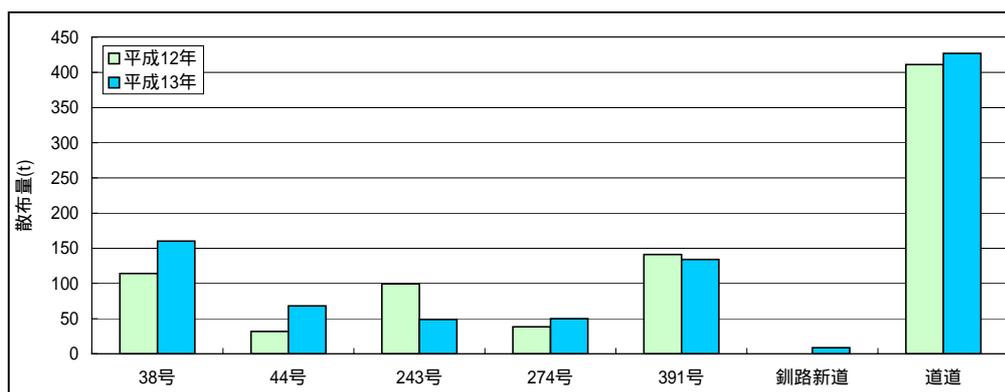
釧路川流域における化学肥料販売量(BB肥料及び化成肥料)

JA名	流域	釧路川流域 販売量(t)	摘要 (販売期間)
J A 阿寒	阿寒町、釧路市	849	H13/4 ~ 14/3
J A 標茶町	標茶町、釧路町	5,834	H13/4 ~ 14/3
J A 鶴居村	鶴居村	2,377	H13/7 ~ 14/6
J A 幌呂	鶴居村(幌呂)	1,524	H13/1 ~ 12
J A 摩周湖	弟子屈町	5,300	H13/4 ~ 14/3
計		15,884	

2) 道路(国道・道々)の融雪剤の散布状況

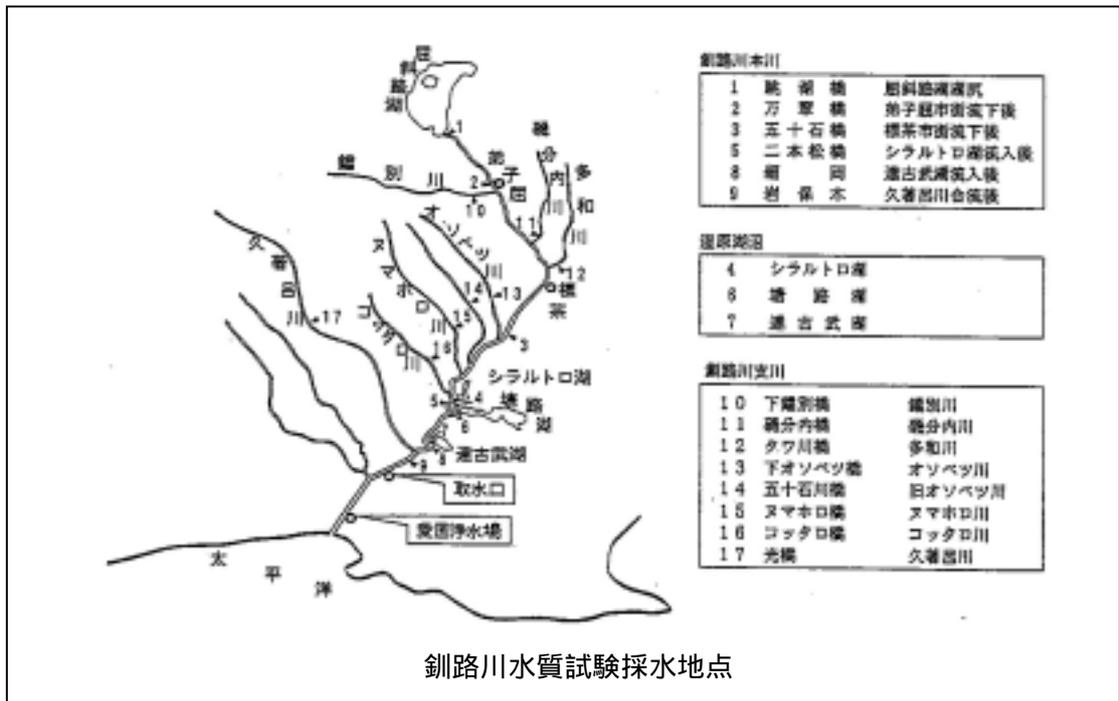
釧路川流域内の道路への融雪剤の散布状況をとりとまとめた。

年度	道路名	散布量: 単位(t)					合計 (焼砂は除く)	釧路川流域の 単位面積あたり 散布量(t/km ²)
		塩化カルシウム	塩化カルシウム水溶液 (固形重量)	塩化ナトリウム	塩化ナトリウム + 塩化マグネシウム (6:4)	その他 (焼砂)		
平成12年	38号	112	2				773	0.31
	44号	32						
	243号			50	50			
	274号	19	1			19		
	391号	31		33	33	44		
	釧路新道 道道	411						
平成13年	38号	154	6				891	0.35
	44号	68		49				
	243号							
	274号	22	6		16	6		
	391号	64	1	33	36			
	釧路新道 道道	427						

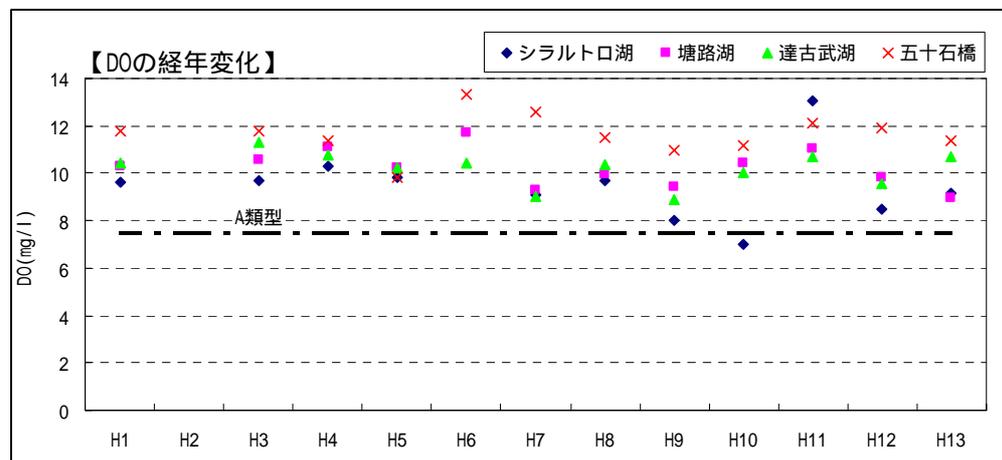
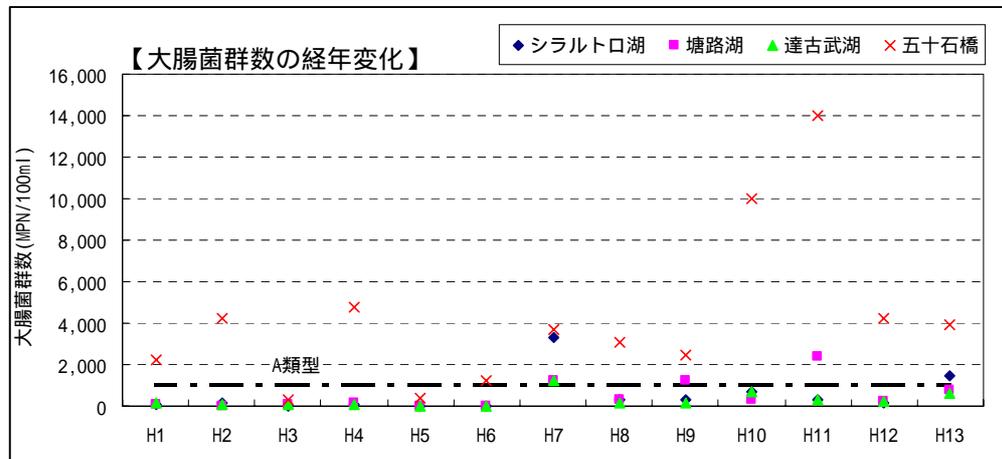


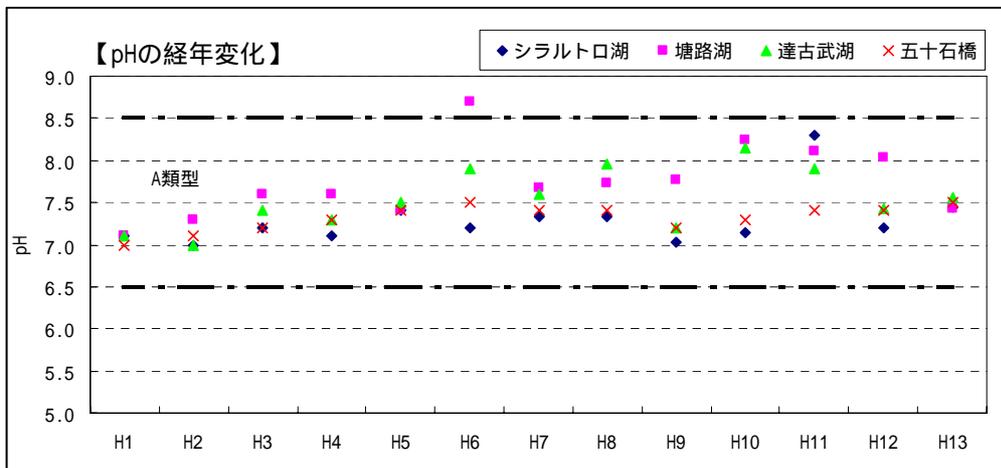
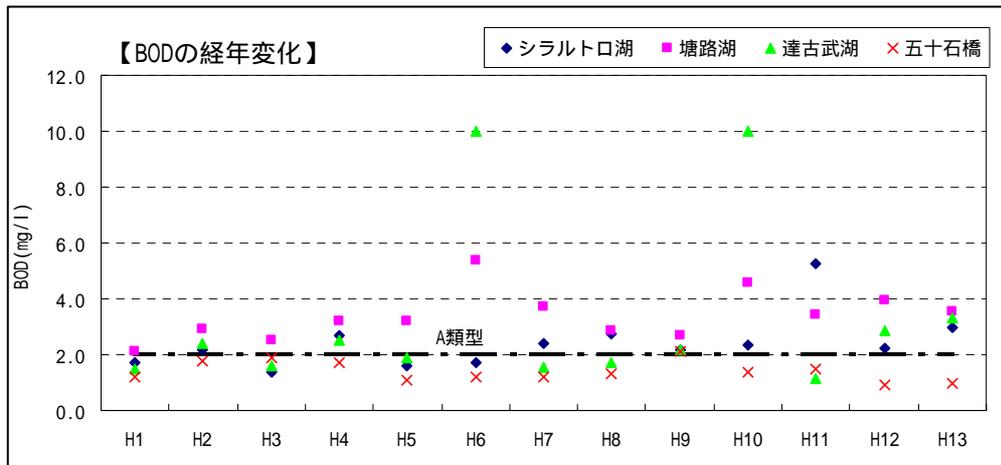
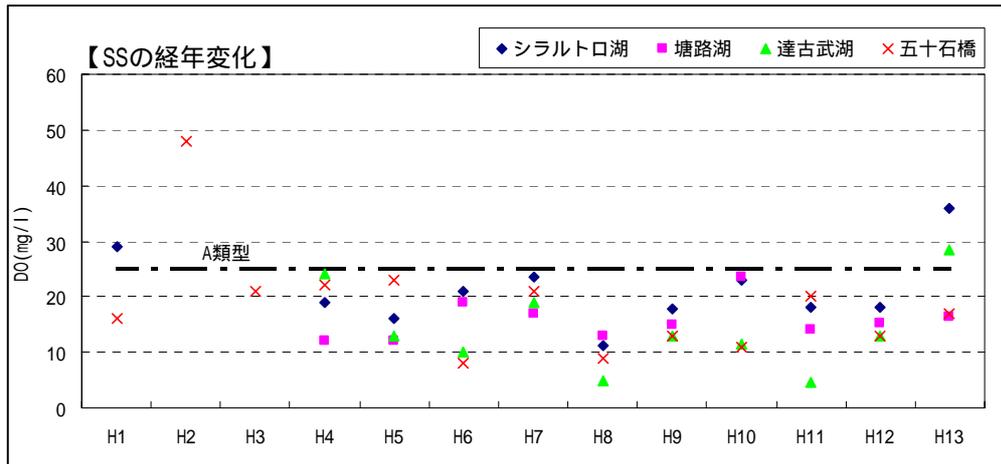
【3 湖沼の水質状況】

シラルトロ湖、塘路湖、達古武湖は、湖から釧路川へ流入する地点で平成元年から水質を測定している。なお、グラフに記載した類型指定の基準値は、湖沼出口部河川のものである。



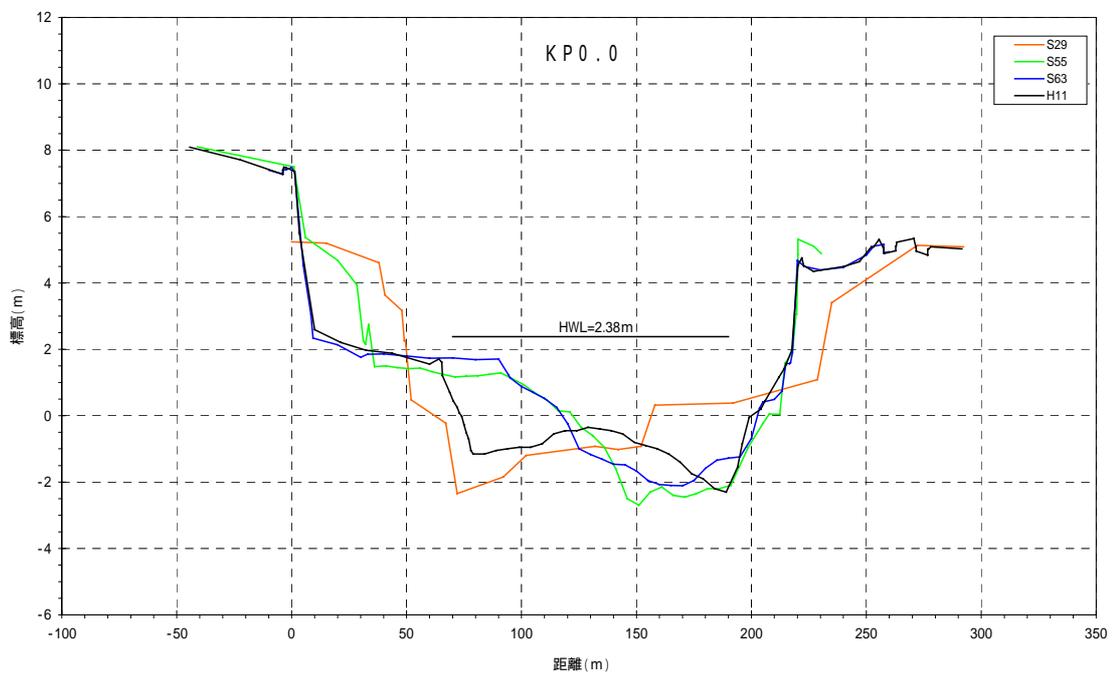
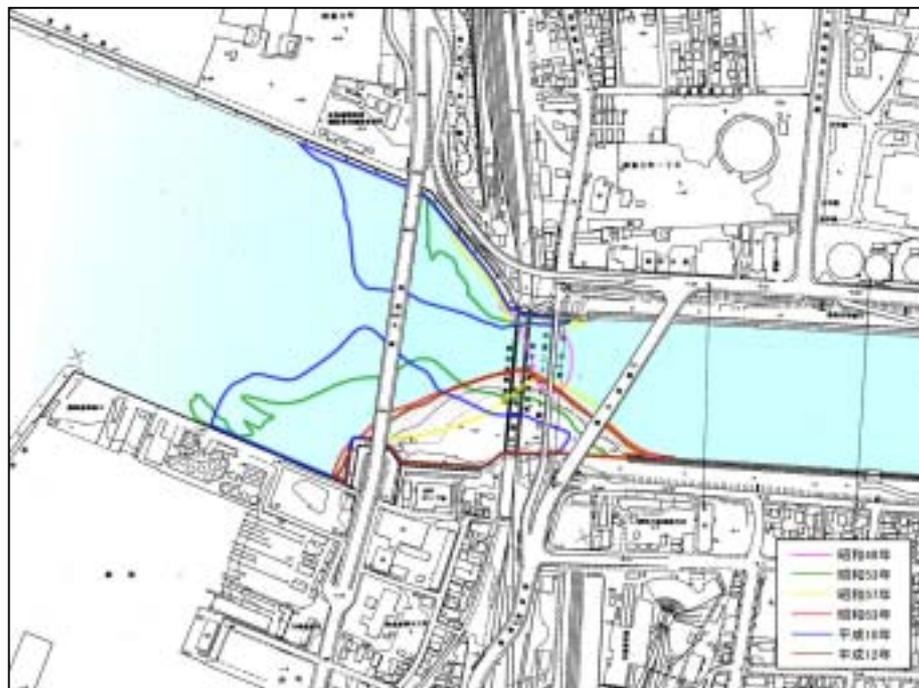
出典) 水質年報 (釧路市水道部)





【新釧路川河口部の経年変化】

河口付近の平面図と測量横断より河口砂洲の経年変化を作成した。



新釧路川河口部経年変化